

福祉だより信州

昭和27年1月11日
第三種郵便物認可第735号
平成28年8月25日発行
(毎月25日発行)



福祉の心
ふっころ
長野県社会福祉協議会
公式キャラクター

CONTENTS

| | |
|--------------------------------------------------|----|
| 今月のフクシくん | 2 |
| 福祉・介護人材の確保・定着に向けた長野県福祉 人材センターの取り組み～2025年に向けて～ | 4 |
| 誰もが安心して暮らせる地域づくりのために | 6 |
| 信州つながり探検隊 | 7 |
| まいさぼレター | 8 |
| わたしたちのめざす地域貢献 | 10 |
| 福祉保険サービス広告 | 11 |
| Art Meeting | 12 |
| 今月の逸品 | 12 |
| 情報掲示板 | 12 |

No.
735
2016 9月号

自問自答のなかで答えがないからこそ感じられるやりがいがあります

障

がいのある人もない人も分け隔てなく尊重し合いながら共生する社会をめざし、障がいを理由とする差別の解消を推進する「障害者差別解消法」が今年4月1日から施行されました。少しの気遣いや優しさがあれば、誰もが住みやすい地域を実現できるのではないのでしょうか。そうした思いをもって積極的に地域に向き、知的障がいに対する理解を広げる努力をしている大町市社協の障害福祉サービス事業所「たんぼぼ」。重度の知的障がい者が生活リズムを整え、社会生活に慣れることを目的に、職員と利用者が共に生活をしながらさまざまな活動をしています。自発的な発話が難しい利用者ですが、職員とのやりとりはまさに以心伝心。そこには大きな信頼関係が構築されています。

この「たんぼぼ」で働くのが、明るく笑顔が印象的な桑澤優太さん。和やかな雰囲気を作るムードメーカーで、物腰が柔らかく、利用者も家族も日々その優しさに癒されています。桑澤さんが社協に入ったのは6年前。「人の役に立つ仕事がしたい」という思いからでした。とはいえ、もともと福祉を勉強してきたわけではなかった桑澤さん。最初は不安だったそうですが、利用者と関わる中で彼らの素直な人間性にふれ、自分と似ている部分を見出したり、物忘れをしがちな桑澤さんに対して利

用者から教えてもらうなど「自分と変わらないのだな」と感じるようになって「人と人の部分でつながってほしい」と考えるようになったと言います。もちろん、対応がうまくいかない日もあります。そんな時は利用者にしっかりと謝るなど、人と人との当たり前の付き合いを大切にしています。そんな桑澤さんが仕事をするうえで意識をしているのが、常に利用者や家族のニーズに答えられているかを自問自答すること。「ありがとう」と言われても自己満足で終わらず、ほかの職員の話も聞くなど別の角度からの視点も心がけています。こうした福祉の仕事には答えがなく、評価もされづらい苦しさがありますが、それがやりがいだと話す桑澤さん。

「福祉と向き合うとしんどいけれど、みんなでもっともニーズに応えようと考えたり、いろいろな企画を考えることは楽しいですね。それに、その企画に対して周囲が反応を示してくださると、少しでも人の役に立っているのかなどやりがいを感じます」

そう語る桑澤さんが目標としているのが、障がいのことを一番に考えて、周囲を巻き込みながら仕事を進めていく小野澤博幸所長の姿。そんな所長をめぐり、今日も桑澤さんは穏やかな笑顔の中で自問自答を繰り返しながら生き生きと働いています。



現場職員3人で協力し、散歩やリハビリ体操といった体を動かす活動と、読書や工作などの創作活動を中心に生活介護を行う桑澤さん。この日は桑澤さんのユニークな紙芝居が行われました。また、利用者の要望を聞き取り、プールやブルーベリー収穫など常に新しい活動を取り入れてマンネリ化も防いでいます。将来的には支援する家族の高齢化も考慮した活動も考える必要があると桑澤さんは話します。

「人の役に立つ仕事がしたい」 そんな思いから感じる充実感

東京で営業職をしていた頃は考え方が未熟で、欲しくないものを購入させてノルマを達成しないといけないと苦しみました。今はやりがいをもって働いています。社協は困りごとのある人が集まる場所なので、さまざまなものがつなぎやすいという特徴があります。「誰かの助けになる仕事がしたい」と感じている人には最適な職場だと感じています。

その人らしく生きるためには 地域住民の力が大切



この仕事に就いた当初はカルチャーショックもありましたが、一緒に笑い合えたり気付きができる一つひとつがうれしく、日常が違う角度から楽しめるようになりました。毎日新しい発見もあり、家族や地域ともつながれるやりがいもあります。だからこそ地域の人には積極的に声をかけていただきたいですし、そうした中で障がいの者が社会に溶け込めたらと願っています。

長内末樹さん(看護師)

常に変化がある福祉の仕事 そこから始まる付き合いも魅力



福祉の仕事は人との支え合いなど深みがあり、自分たちも学べ成長できます。特に利用者との共同作業は共に汗を流す中で同じ目線での付き合いができ、高め合えます。興味をもたれたら、まずはボランティア活動などからこの世界に入っていたらうれしいですね。

小野澤博幸さん(障害福祉サービス事業所 係長兼所長)

大町市出身。高校・大学と農業を学び、卒業後は東京のIT関連企業に就職。営業職として働いた。帰郷後、就職活動がうまくいかず悩む中で「人の役に立つ仕事がしたい」と思うようになり、平成22年に大町市社協に入職した。大町市役所に出向後より現職。責任者として活動の予定表の作成等も行うほか、作業所「ひまわりの家」の活動にも従事している。

福祉・介護人材の確保・定着に向けた 長野県福祉人材センターの 取り組み ～2025年に向けて～

1 今後の介護人材確保の 見込みについて

近年、少子・高齢社会の進展等により、国民の福祉サービスに対する需要の増大が見込まれ、また介護保険制度や障害者自立支援法の施行により、利用者本位の質の高い福祉サービスの提供が求められてきています。そのサービス提供の根幹である福祉人材の確保・育成は急務であり、厚生労働省の推計では、団塊の世代が後期高齢者となる2025年(平成37年)には約37万人の介護人材が不足するといわれています。また、長野県においては約4・6万人の介護人材が必要になるとされていますが、このままの状況では約8,000人の介護人材の不足が見込まれています。

2 長野県福祉人材センターの 取り組みについて

長野県社会福祉協議会では長野県より指定を受け、長野県福祉人材センター(以下人材センター)を運営しています。その登録の状況等をみると有効求人倍率については前年度から多少の改善傾向をみせていますが、引き続き高い数値を維持しています。近年新規求職者数は減少し、更に求職登録者数も伸び悩んでおり、就職説明会の参加者についても年々減少するなどして、需給のアンバランスの傾向は続いています。

こうした状況を踏まえ、人材センターでは、平成26年度から設置した「福祉・介護人材確保ネットワーク会議」等を通して、行政、関係機関・団体

② 潜在的有資格者支援事業

過去に取得した福祉・介護の資格を有効活用したい方、一度職場を離れた後に復帰を検討されている方などを支援するため、「潜在的有資格者支援事業」を実施しています。資格を所持しながら、現在は福祉・介護の職場に就労していない方を対象に、「お仕事復帰ミニ講座」や「復職支援研修」を行っています。

また、平成29年4月からは離職した介護福祉士等の届出制度がスタートしました。介護福祉士等の資格を所持しながら、現在は福祉・介護分野でお勤めされていない等の方のために、人材センターより有益な情報提供等を行うことで復職が進むように準備を進めています。

③ 福祉の職場体験

福祉・介護の仕事のやりがいや生きがい、魅力などを正しく認識していただくため、福祉の職場での就業体験の機会を提供しています。学生や一般の方を対象に、昨年度は577人の方に体験していただきました。体験は2日～10日の間で体験者の希望により行っていたいでいます。

体験者のアンケートからは、「利用者さんから『ありがとう』と言われ、やりがいを感じた。ますます介護の仕事に就きたいと思った」、「進路選択に迷っていたが、体験を通じて迷いが晴れ、介護福祉の道へ進むもうと思った」、「福祉の仕事



(写真2) 専門員による中学校への訪問講座

は未経験で不安であったが、体験させてもらったなら、頑張ってみようと思えた」等の前向きな意見をたくさんいただいています。今年度も引き続き多くの方に職場体験事業を利用していただけるようにPR等に努めていきます。

④ 福祉職場PR事業

特に中学・高校生等を中心とした若年者層から福祉・介護分野に就職を希望する人が増えることをめざし、中学校、高校への訪問活動(平成27年度は74カ所)や訪問講座(平成27年度は38講座)を開催し、福祉・介護の仕事の魅力を伝えています。

この訪問講座のほか、新聞広告、月刊誌への広告掲載を行い、福祉・介護の

と連携・協働を進め、様々な面からのアプローチを多面的に進めていく中で一人でも多くの方が福祉・介護分野で働いていただけるよう支援を進めています。

3 平成28年度の主な事業について

① 福祉の就職説明会

人材センターでは、県内外で福祉の就職説明会を開催しています。長野労働局等の関係機関との連携・協働により大規模で開催する「福祉の職場説明会」(写真1。年間10回開催)や、県内

仕事についての啓発、イメージアップを図っています。

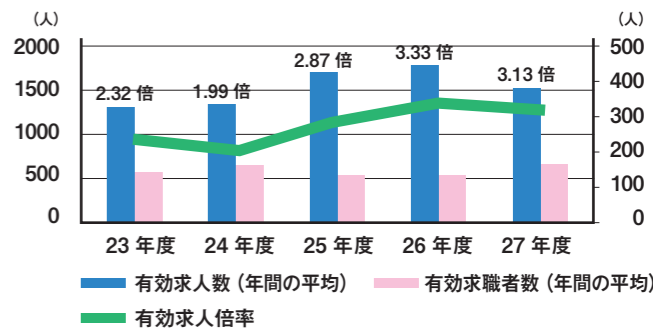
昨年度は、中高生向けとしてマンガを活用した啓発冊子「笑顔を支えるプロになる」(写真3)を刊行しました。長野中央警察署のイメージキャラクターで有名な長野県出身の漫画家 唐花見コウ氏に依頼し、「マンガ」かいごのおにいさん」を描いていただき、冊子に収録しました。冊子にはマンガのほか、介護のお仕事紹介、資格、働く先輩へのインタビュー等も収録されています。



(写真3) 笑顔を支えるプロになる。(vol.1,vol.2)

この冊子は長野県社会福祉協議会のホームページからダウンロードできるほか、ご希望があれば郵送もできますのでご連絡ください。長野県社会福祉協議会 福祉人材部グループ TEL 026-226-7330 「笑顔を支えるプロになる」は今年度も制作予定となっております。11月11日の「介護の日」に合わせた刊行に向けて準備を行っています。続編の刊行にご期待ください。

過去5年間の有効求人数・有効求職者数の推移 (長野県福祉人材センターとりまとめ分)



(写真1) 平成28年7月に開催した職場説明会(長野会場)

4 これからの人材確保に向けて

人材センターではここでご紹介した以外にも新たな事業等を実施しながら、2025年に向け福祉・介護人材の確保に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

今般、社会福祉法の一部が改正され、その中には福祉人材センターの機能強化が示されています。具体的には支援対象の拡充、ハローワーク等との連携強化、前述の離職した介護福祉士等の届出制度の創設などです。

これらを踏まえながら事業を実施する上では、長野県及び関係機関・団体との連携、協働を更に進めながら、関係者が一丸となって福祉・介護分野で働いていただける方を一人でも増やしていけるよう引き続き努めていきたいと考えています。

用語解説

- 有効求人数：前月に仕事を求めていたが就職していない人数と、今月仕事を求めていて就職していない人を足した人数の合計。
- 有効求職者数：事業所が前月に求人を出していたが採用充足していない人数と、今月求人を出していたが採用充足していない人数の合計。
- 有効求人倍率：有効求職者数に対する有効求人数の割合。倍率が1を上回れば人を探している事業所が多く、1を下回れば仕事を探している人が多いことを示す。
- ※グラフの数値は長野県福祉人材センターの取りまとめた福祉・介護人材に限った数値になります。長野労働局の発表している雇用情勢とは異なります。

信州つながり探検隊

住民主体の福祉活動地域づくりレポート

小物作りで東北を支援する

東日本大震災から5年が経ちました。被災地では復興に向けた動きが進んでいますが、まだまだ長い支援が必要です。今回は長野市で小物作りをしながら復興支援を行っているグループ取材しました。

やって来たのは、長野市ボランティアセンター。毎月第2・第4木曜日の午後になると、センターの一角に楽しい声が弾みます。「ここはこの色の生地を使ったほうがいいね」「今度はバッグを作ってみようかな」みんな楽しくお茶を飲みながら、作品づくりが進みます。

グループの名前は、「福ゾクくんプロジェクト」。平成23年4月に結成し、今年で5年目を迎えました。立上げ当初に床を拭くぞうきを東北に贈ったことから、福をこめて、この名前になりました。震災当初の物を送る支援から、現在は小物を作成販売し、その売上金を岩手県大槌町の小学校の図書館の本や棚、小学校の卒業生へ図書券を送る支援などを行っています。完成した作品の値段は、会員の話し合いで決めています。材料となる毛糸や布は、ボランティアセンターへの寄付から成り立っています。どんな小さな布でも、メンバーの手にかかれば、素敵お手袋、ポーチ、カードケースに変わります。違う色をあえてアクセントにしたり、会員の皆さんは本当に楽しそうに活動していました。

副代表の渡辺さん、会員の小林さんにお話を聞くことができました。みんなで楽しく作ることによって、生きがいになったり、日中ひとりであることの気分転換になっているそうです。「続けることが大事。できるときにできることをしながら、10年は続けたい」と話していました。

現在、福ゾクくんプロジェクトでは、一緒に活動をしてくれる会員及び材料となる毛糸や布を募集しています。興味のある方はぜひどうぞ。



上：楽しくおしゃべりしながら作っています
下：作品は長野市ボランティアセンターや地域のイベントで販売しています

団体名/福ゾクくんプロジェクト
(活動場所:長野市ボランティアセンター)
問合せ先/代表 近藤浩子氏
(TEL 026-227-3707
長野市ボランティアセンター)



国民の五大疾病に認定されたところの疾患、家族会は研修等を通して学んでいます

福祉団体リレーエッセイ 誰もが安心して暮らせる 地域づくりのための

特定非営利活動法人長野県精神保健福祉会

障がいつてなに？社会的仕組み(制度)が変わりました。

平成7年、精神保健法が精神保健福祉法に改正されました。

以前は、こころの障がいで生活に支障が生じるのは、障がいの特質・性質が原因であり、まず治すことが重視されていました。(医学的モデル)

新しい理念では、様々な支障は社会の仕組み(制度、無理解、偏見など)が原因で生じており、地域社会と人との関わりが大切と捉えるようになりました。(社会的モデル)

障がいがあっても地域で暮らして行けるよう、社会の仕組みや制度が変わってきているのです。

病気の折り合いを付けながらその人らしく地域で生活を

精神障がい(疾患)には、二つの障

がいがあると言われます。

一医学的障がい⇨統合失調症、精神作用の中毒・依存症、知的障がい、身体障がい、日常生活に支障制限がある精神症状です。

二生活能力障害⇨対人関係・社会的適応が苦手、楽しめない・笑えない、自発性・自主性が低下する、意欲の低下、遂行作業が苦手、生活リズムが不規則・保清に無関心、金銭管理が苦手等々です。

服薬は欠かせず、副作用・合併症にも悩まされます。

自分で生活できる力と生活能力を育むリハビリリカバリーが生活には欠かせません。

社会復帰活動、医療・他の福祉団体・支援事業者との連携も必要です。

各地域家族会からのメッセージ

長野県では、共生社会「共に生きる長野県」を目指しています。

さまざまな格差・貧困・偏見及び社会環境・価値観の変化等、社会の壁は大きく精神障がい者(疾患者)と、その家族に津波のように押し寄せています。多くの精神障がい者(疾患者)は孤立し・引きこもりなど、病状・症状に悩まされ、親亡き後を始め、生活不安を抱えています。

精神障がい(疾患)は誰もがなり

うる可能性があるものです。偏見・差別のない地域社会が実現することを目指して、私たちの活動へのご理解・ご協力をお願いします。

(NPOながのかれん理事長 榛葉智昭)

団体紹介

各地域(市町村)の精神障がい(疾患)を抱える家族の会⇨家族会の連合会です。全国組織では、(公社)全国精神保健福祉会連合会(略称・みんなねっと)が活動しています。

精神保健福祉の向上・改善の為の、情報提供・家族支援⇨医療福祉・相談等の研修会・講習会(勉強会)など多岐にわたります。特に、孤立・引きこもりがちのご家族に対しての呼びかけは大切であると考えています。

「ひとりで悩まず・みんなとつながろう。」



特定非営利活動法人
長野県精神保健福祉会連合会
(NPOながのかれん)

〒380-0928 長野市若里 7-1-7
TEL 026-225-6400
FAX 026-225-6422



社会福祉法人 花工房福祉会

〒381-2226 長野県長野市川中島町今井 1387 番地 I
TEL:026-283-4187 / FAX:026-283-8703
E-mail:ecorn87@mx1.avis.ne.jp http://www.hanakobo-fukushikai.jp/

生きるしあわせ
はたらくよろこび
地域といっしょに

まいさぼ通信

生活困窮者自立支援制度の目標の一つに「生活困窮者支援を通じた地域づくり」があります。このコーナーでは、その部分に着目して、各地の生活就労支援センター「まいさぼ」の取り組みを紹介します。

地域のエキスパートとの連携が、自立に向けた糸口を見つけるカギ

まいさぼ上伊那は主任相談支援員と相談就労支援員の2名体制で南箕輪村社会福祉協議会の一室を借用して上伊那郡6町村の相談支援業務にあたっています。

相談内容の傾向について、「昨年の実績で一番多いのが就労に関して、そして生活費の問題、就職活動に向けた準備の相談と続いていた。就労に関わる相談が多くあり、まずはハローワークの求人を紹介したり、公的な就労支援事業につなぐことを基本としているが、規則的な仕事には就けない状態の方も多数相談に来られた」と支援員は話します。

そこで、まいさぼ上伊那では、内職の作業を出していただくをお願いをするため、企業訪問を行いました。「地元の家協からの紹介でA社に伺い、さっそくある相談者が内職作業を行えるようになった。その後、A社の方から同業のB社をご紹介いただき、B社でも別の相談者が内職作業を行えるようになるなど、少しずつ地域社会の理解が得られてきた」と支援員は話します。「発端は地元の方からの紹介なので、各役場・社協の方々の協力は我々にとって不可欠な存在である。今後もそういった情報をより多く寄せていただきたい」と話します。そのた

まいさぼ上伊那

(長野県上伊那生活就労支援センター)

〒399-4511 上伊那郡南箕輪村2380-1212 松寿荘内

TEL 0265-96-7845 FAX 0265-96-7846

対象エリア／上伊那郡(辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村)

人口／82,925人(H28.7.1現在 長野県毎月人口移動調査結果)

め、昨年度は3ヶ月毎に1カ所で行っていた支援調整会議(※1)を、今年度は各町村別に開催する方向で調整しているとのこと。「その地域の個別案件について検討するとともに、その場で地域資源についても教えていただきたい」と話していました。

※1 支援調整会議

相談者本人と支援員が作成した自立支援計画(プラン)案をもとに、関係機関において、課題解決に向けた内容になっているかを協議・共有を行うほか、プラン終結時の評価を行います。

また、プランを検討するなかで、不足する社会資源についても地域と検討する必要があります。



4月22日、松本市浅間温泉文化センターにて、まいさぼ支援員のほか、行政、社協、包括、福祉施設の職員や生活支援、就労支援に関係する方々など250名が参加してセミナーが開催されました。

生活困窮者自立支援制度 【事業推進セミナー】

研修報告

まいさぼ

レター (概略版)

vol.9

まいさぼレターとは、「生活困窮者自立支援法」に基づき県内23カ所に設置された生活就労支援センター(まいさぼ)の支援員のスキルアップや情報交換を目的として、本会相談事業部が各まいさぼや福祉事務所へ定期的に配信しているものです。今回は、平成28年6月17日に発行された第7号の「地域研修報告」のコーナーの中から記事を一部抜粋して紹介します。

生活困窮者自立支援全国ネットワークの奥田知志代表理事から、「生活困窮問題の本質とは」をテーマに講演がありました。奥田氏からは「経済的困窮に対する支援は『何が』必要かである一方、もう一つの困窮である社会的孤立では『誰が』必要かであり、人は、何のために働くのかだけでなく、誰のために働くのかという視点が重要である」と相談者の自尊心と自己有用感に着目して、支援する側とされる側をどう乗り越えられるかが地域づくりのポイントである」と熱いメッセージを送っていただきました。

基調講演②では、昨年に引き続き生活困窮者自立支援全国ネットワークの奥田知志代表理事から、「生活困窮問題の本質とは」をテーマに講演がありました。奥田氏からは「経済的困窮に対する支援は『何が』必要かである一方、もう一つの困窮である社会的孤立では『誰が』必要かであり、人は、何のために働くのかだけでなく、誰のために働くのかという視点が重要である」と相談者の自尊心と自己有用感に着目して、支援する側とされる側をどう乗り越えられるかが地域づくりのポイントである」と熱いメッセージを送っていただきました。



コーディネーター／奥田知志氏
パネラー／佐藤もも子氏(まいさぼ東御 主任相談支援員)／山本恭子氏(金子法律事務所 弁護士)／山岸勝子氏(松本市社協四賀地区センター 課長)

パネルディスカッションは、「困窮者支援で地域を創る！」個別支援を通じた地域づくりをテーマに行われました。パネラーの1人であるまいさぼ東御の佐藤主任相談支援員は、「1人の困りごとを放っておかない。そのためにどうやって解決していったらいいかをみんなで考える必要があり、ありとあらゆる可能性を考える、認めることが大切である」と話しました。コーディネーターの奥田氏は「1人の困りごとが解決に向かうプロセスが、地域づくりであり、そのプロセスをどのように共有して具現化していくのが専門職に問われている」と話しました。

UD(ユニバーサルデザイン)で地域貢献!!



有限会社 サンライズ

〒381-0034 長野市大字高田1390-1 E-mail:post@sunrise-gogo.co.jp TEL.(026)224-2445 FAX.(026)224-1123

企画 ■ デザイン ■ web ■ 印刷 ■ パッケージ製作 ■ 折り加工製本 http://www.sunrise-gogo.co.jp

平成28年度 社会福祉施設 総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の **事故・紛争円満解決のために!**

加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

| 補償金額 | | 基本補償(A型) | | 見舞費用付補償(B型) | |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 対人賠償(1名・1事故) | 2億円・10億円 | 2億円・10億円 | 2億円・10億円 | 2億円・10億円 | 2億円・10億円 |
| 対物賠償(1事故) | 2,000万円 | 2,000万円 | 2,000万円 | 2,000万円 | 2,000万円 |
| 受託・管理財物賠償(期間中) | 200万円 | 200万円 | 200万円 | 200万円 | 200万円 |
| うち現金補償限度額(期間中) | 20万円 | 20万円 | 20万円 | 20万円 | 20万円 |
| 人格権侵害(期間中) | 1,000万円 | 1,000万円 | 1,000万円 | 1,000万円 | 1,000万円 |
| 身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中) | 1,000万円 | 1,000万円 | 1,000万円 | 1,000万円 | 1,000万円 |
| 事故対応特別費用(期間中) | 500万円 | 500万円 | 500万円 | 500万円 | 500万円 |
| 被害者対応費用(1名につき) | 死亡10万円 後遺障害03-10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度) | 死亡10万円 後遺障害03-10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度) | 死亡10万円 後遺障害03-10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度) | 死亡10万円 後遺障害03-10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度) | 死亡10万円 後遺障害03-10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度) |
| お見舞い等 | 被害者対応費用 | 被害者対応費用 | 被害者対応費用 | 被害者対応費用 | 被害者対応費用 |
| | 傷害見舞費用 | 傷害見舞費用 | 傷害見舞費用 | 傷害見舞費用 | 傷害見舞費用 |

◆28年度新設 使用者賠償責任補償(プラン3-①オプション) 社会福祉法人役員の賠償責任補償(プラン4)

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

(SJKNK15-17043 2016.02.18 作成)

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成28年度 全国200万人 加入!!

ボランティア活動保険

| 補償金額 (保険金額) | | 年間保険料 (1名あたり) | |
|-----------------|---------------------------------|---------------------|------------------------------|
| プラン | Aプラン | Bプラン | プラン |
| 死亡保険金 | 1,200万円 | 1,800万円 | 基本タイプ |
| 後遺障害保険金 (限度額) | 1,200万円 | 1,800万円 | Aプラン |
| 入院保険金日額 | 6,500円 | 10,000円 | Bプラン |
| 手術保険金 | 入院中の手術 65,000円 外来の手術 32,500円 | 100,000円 50,000円 | 天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波) |
| 通院保険金日額 | 4,000円 | 6,000円 | 430円 |
| 特定感染症の補償 | 上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ | | 650円 |
| 葬祭費用保険金 (特定感染症) | 300万円(限度額) | | |
| 賠償責任補償 | 賠償責任保険金 (対人・対物共通) 5億円(限度額) | | |



ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約傷害保険、賠償責任保険) 送迎サービス補償 (傷害保険) 福祉サービス総合補償 (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間: 平日の9:30~17:30 (12/29~1/3を除きます。)

(SJKNK15-17042 (2016.02.18 作成))



特養を核とした地域密着型の多機能施設を展開する「須坂やすらぎの園」。生計困難者にはリハビリ施設の利用を半額以下にしているほか、生活保護世帯の教育支援や地域における介護予防事業、福祉人材の育成など多様な地域貢献事業を実施しています。その一つとして開所したのが、生計困難者が低額や無料で利用できる診療所「やすらぎクリニック須坂」です。きっかけは、まだ小さな法人だった24年前。互助の精神が根付いている地域柄、特養にボランティアで訪れる住民が多かったことから地域が求める事業をアンケート調査したところ、ショートステイやリハビリ施設、認可保育園の開設といった意見の一つとして上がったのが診療所でした。これらの要望を一つ

ひとつ実現してきたものの、診療所はなかなか開設に至りませんでした。法人設立20年目に再度地元職員25名にアンケートを取ると、やはり診療所の要望が根強かったため、職員でプロジェクトチームを結成。東京にある無料・低額診療所を実践している病院を視察し、ノウハウを得て須坂の環境に即した医院の形を考えました。そして、地域住民や利用者家族、県からの後押しもあって、8月1日に「やすらぎクリニック須坂」をオープン。近所の高齢者からの評判も上々で、現在は日に日に利用者が増えていきます。今後はさらに法人として、学童保育と避難所を兼ねた建物を建設予定だそう。法人独自の貢献事業で、地域の誰もが安心して生活できる拠点施設をめざしています。



外科・整形外科・内科を備え、訪問リハビリも併設する「やすらぎクリニック須坂」
〒382-0011 須崎市日滝寺窪 2887-1
TEL026-213-6550

「**無料・低額診療クリニックの開設**」
(社福)睦会総合福祉施設須坂やすらぎの園

福祉・介護サービスの提供だけでなく、地域とつながり、地域福祉を支えることを目指している事業所・法人の取り組みを紹介します。

わたしたちのめざす地域貢献

vol. 06

広告主 募集

TEL 026-228-4244

お問い合わせは長野県社会福祉協議会 総務企画部まで
soumu@nsyakyo.or.jp 〒380-0928 長野市若里 7-1-7

今月の逸品

手軽でお求めやすい もらって嬉しい焼き菓子♪

あんだんでは丁寧に手作りした甘さ控えめで子供からお年寄りまで誰もが食べやすい焼き菓子を製造しています。様々な味が登場する『豆乳シフォンケーキ』や、ほどよい甘さの『ガトーショコラ』などの人気定番商品をはじめ、季節限定商品もございます。詰め合わせやホールなどのご要望にも応じます。なお、店舗では日替わりランチなど軽食の提供も行っております。ぜひ、お立ち寄りください！

| | |
|------------------|-------|
| ・豆乳シフォンケーキ | 180円 |
| ・豆乳パウンドケーキ | 150円～ |
| ・ガトーショコラ | 200円 |
| ・その他焼き菓子 | 130円～ |
| ・ランチ | 500円～ |

社会福祉法人絆の会 就労継続支援B型事業所 あんだんて
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田832
TEL/FAX 026-213-6122



Art Meeting



作者紹介

『無題』 馬場 広彰(ばば ひろあき) 30歳 (上田市在住)

真っ白な画用紙に鉛筆が走る。行ったり来たり。ガシガシ グイグイ・・・次第に黒々とした塊のような形が現れる。なんだろう。何だろう。鉛筆の線が行ったり来たりこの表現。
『彼は形あるものを描くことができない。線の往復しかできません。』といった、薄っぺらな短絡的な障がいの評価なんかぶっ飛ばしてしまう。

情報掲示板

県社協からのお知らせ

- 平成28年度福祉教育推進フォーラム
日程/平成28年10月12日(水)
会場/長野県総合教育センター(塩尻市)
- 平成28年度市町村社協事務局長研究協議会
日程/平成28年10月13日(木)・14日(金)
会場/ホテル木曾路(南木曾町)

新着助成金情報

- 平成28年度(第23回)ボランティア活動助成
応募締切/平成28年9月15日(木)(当日消印有効)
問合せ先/公益財団法人 大和証券福祉財団 事務局
TEL 03-5555-4640 FAX 03-5202-2014
URL <http://www.daiwa-grp.jp/dsf/>
- 2016年度子どもたちの“こころを育む活動”募集
応募締切/平成28年9月30日(金)必着
問合せ先/公益財団法人 パナソニック教育財団
こころを育む総合フォーラム事務局
TEL 03-5521-6100 URL <http://www.pef.or.jp/>

(その他の情報は長野県社協HPをご覧ください)

- リニューアルした福祉だより信州はいかがでしたか? ご感想、お問合せ、掲載希望等は下記へお寄せください。
長野県社会福祉協議会 総務企画部 総務グループ
TEL 026-228-4244 FAX 026-228-0130
E-mail soumu@nsyakyo.or.jp

昭和27年1月11日第三種郵便物認可 第735号
2016年(平成28年)8月25日発行(毎月25日発行)
●発行所/社会福祉法人長野県社会福祉協議会
〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL 026-228-4244 FAX 026-228-0130
E-mail info@nsyakyo.or.jp URL <http://www.nsyakyo.or.jp/>
●印刷所/有限会社サンライズ ●制作/合同会社ch.
●購読料/1部30円(本会費を含む)